



Title	FITにおけるファッションデザイン教育
Author(s)	中川, 早苗
Citation	デザイン理論. 1994, 33, p. 100-101
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52873
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

FIT におけるファッションデザイン教育

中川早苗／奈良女子大学

1. はじめに

洋服は、明治以降政府が軍服や官服に近代化の一環として導入したものであるが、今日では日本の伝統的な和服に代わって日本人の日常的な衣服になっている。この洋服の普及に大きな役割を果たしたのが家政系の大学である。しかしそこの洋裁教育は、個別制作(home sewing)を中心とした平面裁断による制作が主で、量産を前提とした立体裁断との併用による制作はほとんどなされていない。服装デザインの教育においてもテキスタイルデザインやイラストレーションなど平面での制作が中心で、コンセプトに基づくデザイン画からドレーピングをもとにパターンをおこし、実際の布を用いて一着の服に仕上げるといった立体での制作はほとんどなされていない。和服と違い洋服における美的表現のポイントは人体の立体的なシルエットにあり、デザイン教育においてもこのような面からの教育が今後重要だと考える。

筆者は、1990年文部省在外研究員としてニューヨーク州立ファッション工科大学、略称FIT (Fashion Institute of Technology) に滞在し、ファッションデザイン教育に関する講義や実習を見学するとともに、生涯教育部門で開講していた夏季講座 Summerim 1990 (7月10日から30日までの3週間開講) のファッションデザイン専攻アパレルデザインコース(ドレーピング1)に参加して、立体裁断の理論とテクニックについて勉強した。

ここでは見学や実習を通して見聞したFITにおけるファッションデザイン教育の一端について紹介する。

2. FIT におけるファッションデザイン教育について

FIT は、ニューヨーク最大の産業であるファッション業界のニーズに応じて、専門技術者とその指導者を養成するために1944年に設立されたユニークな教育機関である。全日制の専門分野は、アート&デザイン部門とビジネス&テクノロジー部門の2部門に大別され、取得学位による区別として準学士、学士、修士の3コースが設置されている。

アート&デザイン部門ファッションデザイン専攻の授業では、デザイナーの直接指導のもと、デザイン・インスピレーションからパターン・メイキングの技術、作品の完成、評価に至る全プロセスを、各段階でチェックを受けながら授業を進めるといったシステムがとられている。最終段階では、スポーツウェア、子供服、ニットウェア、イブニングウェアなど特別分野の中から選択科目を1つ学ぶことが義務づけられている。

1990年夏季講座のアート&デザイン部門ファッションデザイン専攻(アパレル分野)において開講されたカリキュラムは、次に示すようなものであるが、全日制におけるカリキュラムとほとんど同じである。

・AP116: Apparel Design (Draping 1)
Basic Silhouettes are draped in muslin on the dress form.

・AP117: Design Workshop 1
Students create and develop basic designs in muslin and fabric and complete an original sample.

・AP118: Apparel Design (Draping 2)

Further study of problems in draping.

- AP119: Design Workshop 2

Students drape, cut, and assemble designs in muslin and fabric.

- AP121: Flat Pattern Design

Use of the master pattern in developing ideas according to professional standards. Students test patterns in muslin for fit and proportion.

- AP141: Design Room Techniques

Stresses basic professional techniques of garment construction utilizing modern industrial equipment.

- AP142: Advanced Design Room Techniques

Enables the student to build upon the foundation course of AP141. The student will learn new and more specialized construction techniques as used in the fashion industry.

- AP221: Flat Pattern Design

Advanced use of the master pattern.

Includes structures for sleeve and body styling, collar designs, and the development of the slack sloper.

- AP262: Tailoring Techniques

Design-room practices of making coats and suits; includes construction, assembling, decorative details, and finishes for tailored clothes.

筆者は、アパレルデザイン（ドレーピング 1）講座（月曜から金曜の 9:00 a.m. ~ 12:40 p.m. 3 週間）を受講した。1 クラス 15 人、受講生の多くはブラジルや台湾、韓国、中国などからの留学生で、年齢も 20 代から 50 代までとバラエティに富んでおり、その目的もデザイナーやパタンナーを目指すなど様々である。授業は、一人一台ずつ与えられる標

準サイズ（10号）の人台を用いて、毎日出される課題（基本的なシルエット）に基づいてシーチングによるドレーピング（立体裁断）を行う実習が中心であるが、毎回実習にはいる前に 1 時間あまりアパレルデザインにおけるドレーピングの重要性やホームソーイングとの違い、その日の課題についての詳しい説明が、スタイル写真やサンプルをもとになされる。実習ではステップ毎にピンの打ち方やゆとりの入れ方、ダーツのつまみ方や分量、全体のバランスなど厳しいチェックがあり、ok がでるまで何度もやり直しをさせられる。かなりハードなスケジュールでその日の課題を終えて寮に帰るのはいつも夕方、帰ってからもノートの整理や翌日の実習の準備で追われる毎日であった。最終日には、スタンドカラーのワンピースのデザイン画を基に、シーチングでドレーピングを行う試験があり、作品を提出したのは 10 人足らず、日本の大学における授業の甘さを実感した 3 週間であった。

3. おわりに

以上にみてきたように、FIT におけるファッションデザイン教育の目的は、ファッション業界の中堅スペシャリストの養成と社会人教育にあり、ファッション業界に必要な理論と技術の一貫した教育が、優れた設備と豊富な資料を駆使して、業界での経験や実績を持つ優秀な教授陣によってなされている。卒業生の多くは、ファッション業界の中核となって活躍しており、そのキャリアを次代のスペシャリスト育成のためにと FIT で教鞭をとっている人も多い。アメリカと同じように女性の社会進出、それも一生働き続けたいと望む女性が増加している今日、日本の女子大学においても、社会のニーズに対応した有能なスペシャリストの養成は不可欠であり、それに応えるのが新しい家政学部あるいは生活科学部に課せられた役割だといえよう。